



「木の葉ブログ」(ビジネススキル強化お役立て情報)

「新入社員研修」の話題から(2013年6月7日投稿)

「飛び立つことを決断したカモメと そうでないカモメの違いは？」 社会人になること②

誰しもが経験することですが、何かにチャレンジすれば、最初は失敗の連続です。当然、その失敗には痛みが伴います。金銭的な損出もあれば、恥をかいた、自信を喪失したなどがこれにあたるでしょう。そのために、決断してもなかなか行動に移せません。次の「5羽のカモメ」のお話が、そのあたりの心理をうまく表現してくれています。

5羽のうち1羽のカモメが岸壁から飛び立つことを決断した。すると残るのは何羽？

岸壁に5羽のカモメがいます。そのうち1羽のカモメが飛び立つことを決断しました。さて、残ったカモメは何羽？ 皆さんは何羽と思いませんか？ 答えは必ずしもひとつではないと思いますが、『社会人になること(※1)』の著者の模範解答は「5羽」です。なぜかという、1羽のカモメは飛び立つことを「決断」をしただけで、実際には飛んでいないからです。

決断をしたカモメと、決断しなかったカモメのどこに違いがあるでしょうか・・・

自分で決断することは勇気のいることですし、それは素晴らしいことです。また、自分を成長させるきっかけにもなるでしょう。ただ、決断をしただけでは、飛ばなかったカモメのように、何も変わりません。自分も成長できないし、周りの人たちも評価をしてくれることはないでしょう。難しいことを言えば、心の中だけの決断は、誰にとっても「決断」ではないのです。

● 決断しても飛び立たなかったカモメに対し、群れの掟を破り、天空高く飛び立ったかもめがいました。彼の名はジョナサン。1970年代に五木寛之氏の翻訳でベストセラーとなった『かもめのジョナサン(※2)』の主人公です。同書はアメリカで『風と共に去りぬ』を抜く1500万部を記録し、日本でも120万部売れました。その中からポイントと思われる4箇所を抜粋します。

かもめのジョナサンの決断とその後

決断「1千年もの間、われわれは魚の頭を追いかけ回して暮らしてきた。しかし、今や我々は生きる目的を持つにいたったのです。学ぶこと、発見すること、そして自由になることがそれだ！」

その後「やがてジョナサンは、かもめの一生があんなに短いのは、退屈と、恐怖と、怒りのせいだということを発見するにいたった。そして、その3つのものが彼の心から消え失せてしまったのち、彼は実に長くて素晴らしい生涯を送ることになった」



ジョナサンがさらに成長するために、彼が尊敬する先輩かもめが語った言葉

成長への助言「(新しい技術を身に付ける) 秘訣は、まずジョナサン自身が自分のことを、限られた能力しか持たぬ肉体の中に閉じ込められているあわれな存在と考えるのをやめることにあった。ただか 1メートルあまりの翼長と、せいぜい飛行地図に書き込める程度の飛翔力しか持たぬかもめの肉体にとらわれるなというのである」。そして、先輩の最後の言葉は「もっと他人を愛することを学ぶことだ」でした。

※ 1 : 『社会人になること』(山藤 賢著/幻冬舎)

※ 2 : 『かもめのジョナサン(※ 2)』(リチャード・バック著/新潮社)

※文中に「カモメ」と「かもめ」の表記が混在しますが、出典を尊重した結果とご理解ください。

ホームページ <https://www.leafwrapping.com/>

■ 研修、講演などのご依頼、ご相談は【プロフィール】(画面左顔写真下)の〈メール送信〉からお願いいたします。今回は「新入社員研修」の話題から。